鹿児島国際大学

国際交流会館新築 安全祈願祭

工期内の無事完成を祈念

学校法人津曲学園（津曲貞春理事長）は6日、鹿児島国際大学「国際交流会館」の新築工事にあたり、鹿児島市の同大学で安全祈願祭を行い、大学職員や町内会長、施工業者ら約35人が出席して、無事故無災害の安全施工と工期内完成を祈念した。

神事では祝詞奏上に続いて地鎮の儀が行われ、斉鎌を同大学の菱山泉学長、斉鍬を設計・監理を担当する㈲三反田藤男設計事務所の川口利明社長、斉鋤を施工者を代表して㈱新川組の清藤泰明社長がそれぞれ力強く行った。

続いて、菱山学長や林平同窓会副会長、上床地区と星和台地区の町内会長、施工関係者らが神前に玉串を捧げて、安全施工と工期内完成を祈った。

つつがなく神事が終了した後、菱山学長は本紙の取材に対して「国際交流会館の建設は長年の夢であった。施工業者それぞれが協力しあい、事故を起こすことなく施工して頂きたい」と語った。

施工場所は下福元町小都8796－2。6871・92平方㍍の敷地にRC造3階建延べ1726・38平方㍍の会館を新築する。竣工予定日は10月31日。

施工業者は次の通り。

設計・監理＝㈲三反田藤男設計事務所▽建築本体＝㈱新川組▽給排水衛生設備＝㈲昭和テクノ工業▽電気設備＝㈱川北電工▽空調換気設備＝大成空調㈱▽エレベータ設備＝㈱鹿児島日立▽ガス設備＝日本ガス㈱▽電話設備＝昭和通信工業㈲

国際交流会館完成パース（上）と玉串を捧げ安全を祈願する清藤社長ら＝鹿児島市の同大学で

三井建設

ウルトラドーム工法見学会

維持管理 コストを大幅削減

三井建設㈱（清昇社長、本社・東京都）は6日、揖宿郡頴娃町大野岳で県鹿児島耕地事務所発注の大野岳ファームポンド屋根設置で施工したアルミウルトラドーム工法説明会を開き、発注機関や南薩土地改良区などの担当者約30人を招き、維持管理コストを大幅に削減できるなどの特長を披露した。

大野岳ファームポンドは、PC（プレストレストコンクリート）製の農業用水タンクで、内径50㍍、水深6・5㍍、容量1万3000㌧と、国内のファームポンドとしては大型のもの。同社は、既設の農業用水タンクに国内最大級のアルミニウム合金製屋根工法（ウルトラドーム工法）を適用し、わずか1カ月程度の短期間でドーム径49・35㍍、ドーム高さ8・9㍍タンクとしては全国で初めて設置した。

同工法は、農業用水タンクに初のアルミニウム合金製のドーム屋根を適用するもので、ファームポンドの落水期間が19日、現地施工は約1カ月と短期間の施工を実現した。また、軽量かつ高強度で耐久性に優れており、リサイクル可能な屋根の採用でライフサイクルコストを大幅に削減できる。従来のコンクリート製屋根に比べ、①軽量な屋根のため、既設躯体の補強費が不要②足場・支保工の大幅削減により仮設費を削減③耐久性の向上により、維持管理費を削減－などの特長がある。

説明会では初めに、鹿児島耕地事務所の下松正一次長が「南薩地区の農業用水の量は確保されているが、トータル窒素が高い。その原因となるアオコの発生を防ぎ、農業用水の水質改善できるよう、共に3月末までと挨拶。続いて、竹内光三井建設技術研究所部長が「アルミニウム合金製屋根は軽量なので、手巻きウインチによる吊り上げを可能とした。今後もみなさんの意見を頂きながら、より良いものにしていきたい」と述べた後、三井建設土木設計部の武富幸郎氏が同工事内容についての詳細な技術説明を行った。参加者は、メモを取るなど熱心に聴講していた。

同社は、現在施工中も含めて11基の実績があり、大野岳のほかにも九州農政局発注の輝北2号ファームポンドと石之脇ファームポンドで同屋根を施工中で、共に3月末までに完成する。

アルミ合金製の屋根を見学する参加者＝頴娃町の大野岳ファームポンドで

名瀬市で電子入札講習会

実践的な操作を学ぶ

名瀬市の奄美建設会館で4日から6日にかけてCALS／EC電子入札講習会があり、国土交通省の電子入札本格導入を前に参加者らはパソコンを使って実践的な操作を学んだ。

同講習会は県建設業協会が主催して県内各地で開いているもので、名瀬市では1日10人ずつ計30人が参加し、パソコンを使って電子入札の基本操作及び入札シミュレーション等の実践的な操作を学んだ。講師は㈱建築資料研究社／日建学院の和田文彦氏と池田博昭氏が務め、参加者からの質問に答えたりアドバイスしていた。

講師を務めた日建学院の和田課長代理は「本講習は電子入札のための事前準備で、実際の入札でどういった形のものがあるか、またシミュレーションを通しての入札の流れを分かりやすく学んでいただいています。今後は実際に電子入札に対応することになる経営陣の方々にも覚えていただきたい」と会社全体での取り組みの必要性を訴えた。

また参加者の一人は「最初は戸惑ったが何度も練習することにより理解できるようになった。こういう機会がもっと増えたらと思う」と話していた。

パソコンを使い実践的な操作を学ぶ参加者＝名瀬市の奄美建設会館で

講師の説明に真剣に耳を傾ける参加者＝鹿児島市のマリンパレスかごしまで

KTB協会

高品質の新技術解説

アンカー部門地区研修会

KTB協会は6日、鹿児島市のマリンパレスかごしまでアンカー部門地区研修会を開き、実際に出水市の針原川災害個所等にも採用され多くの実績を持つ同技術について、専門的な立場から工法の詳細や施行上の注意事項を説明、参加者らは講師の説明を真剣に聴講した。また、同技術はコスト縮減・安全安心・品質向上などから新技術にも登録されている。

同日は、「KTBグラウンドアンカーシステム構築」、「エポキシ樹脂塗装PC鋼線・SCストランド」、「アンカー関連受圧板」、「PCフレーム他の詳細」など、施工実績などを基に説明した。

うち、応力拘束型Cmsアンカーは平均化された応力を伝達する構造により、安定した力学性状を保ちつつテンドン長を短くすることを可能にしたアンカー。削孔径φ90㍉でφ12・7㍉のSCストランドを4本、許容引張り力で439㎏まで、φ115㍉ではφ12・7㍉のSCストランドを8本、許容引張り力で878㎏まで使用できる。また、φ135㍉ではφ12・7㍉のSCストランドを12本まで、許容引張り力で1318㎏まで使用できる。

引張型SCアンカーは、全塗装PC鋼より線を使用し、完全二重防錆として、従来の引張型アンカーの耐食性の問題を抜本的に解決した工法。この全塗装PC鋼より線は、平成7年財団法人土木研究センターから技術審査証明を取得し、平成6年度大河内記念生産賞、98年度全国発明表彰の発明賞、第1回建設技術開発賞奨励賞などを受賞している。

また、KTB永久アンカーはすべてエポキシ塗装鋼線SCストランド用い、完全な腐食対策で、部材はシンプルで経済的。現在荷重分散型永久アンカー、引張り型SCアンカー、応力拘束型Cmsアンカーの三つのアンカー工法を使用しており、最近開発された応力拘束型Cmsアンカーは応力の分散効果が高く応力度の分散は均質な状態であるほか、PCフレームはプレストレストコンクリートを用いたプレキャストの受圧板で、逆打ち工法による安全施工と工期の短縮、工費縮減等が図れるなど説明した。

建設業許可申請
変更届・資格審査申請・官公庁許認可・登録申請手続き致します
許認可コンサルタント
安田行政法務事務所
鹿児島市中央町5－41 TEL 252-8084
トーカンマンション白雲602号 FAX 252-1144